



中東遠総合医療センター図書室から

掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター図書室
望月雅子 坂本良子

【はじめに】

掛川市立総合病院（以下、掛川）と袋井市立袋井市民病院（以下、袋井）は、2013年5月1日に統合し、新病院「掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター」として開院しました。（病床数500床、診療科目33科、開院時医師数95人、職員は非常勤含め950人）開院までを大きく遡ると、2006年10月に医師不足による診療科目の縮小や建物の老朽化等により、統合目的の構想が始まりました。その後、2011年7月に起工式、2011年12月には公募による新病院の名称が決まりました。中東遠とは、掛川市、袋井市、磐田市、菊川市、御前崎市、森町の5市1町であり、その人口約48万人の医療圏において、磐田市立総合病院とともに中核病院となります。

2013年4月1日に掛川市・袋井市病院企業団が設立し、総合母体は、地方公営企業法に基づき設立された「掛川市・袋井市病院企業団」です。

2006年の構想から7年、起工式から2年で地上8階、最新の免震構造による建物ができました。開院に向けての移設作業は、2年前の調査に基づき診療に支障がない備品から行われました。図書室においても、2011年7月にタイムスケジュールを作成し、両院現状のすり合わせが始まりました（図1）。昨年の今頃は毎日廃棄作業に追われていたのを懐かしく思い出します。

図書関係日程表											2011.7.12現在
2011.7	2011.8	2011.9	2011.10	2011.11	2011.12	2012.1	2012.2	2012.3	2012.4	2012.5	2012.6
掛・袋打合せ			掛・袋打合せ		掛・袋打合せ					掛・袋打合せ	
目録のすり合わせ(雑誌)			製本済み重複雑誌録 別案						目録のすり合わせ(単行本)		
重複雑誌の選別基準作成			選別基準作成								
2012年購読雑誌について(医局会、各部署通知) ・外国雑誌 ・和雑誌(MOの移行した場合の検討も) (掛川・袋井重複雑誌購読見直し、見積り、発注等)											
2012.7											2012.8
掛・袋打合せ											掛・袋打合せ
MO(メディカルオンライン)面検討 今日の診療(イントラネット)(掛) Up To Date (掛・袋) Ovid EBMR(袋) 医中誌web(掛・袋) MO-Consult(袋) 他のEJは? 固定IPの必要性											
新病院への蔵書選定 各科診療部長、長期貸し出し各部署所属長 廃業準備 単行本 製本済み雑誌等											
リスト作成											
9月見積り時期 2013年定期購読雑誌はどうするのか											
1月からの定期購読雑誌をどうするのか 3月までの電子購読にするのか? 新病院 4月から電子ジャーナルの利用は可能か? 図書室、院内からの検索、閲覧、固定IPは?											
廃業へ 新病院で利用する蔵書整理、移設準備 (リスト、ダウンロード、設置場所一覽表等) 所蔵リストの統一化(司書アシストへ)											
電子ジャーナルの選定は? 近年では電子ジャーナルのみでの記事が掲載される場合もあります。 各種文献データベース(PubMed、医中誌Web等)の検索結果からのリンクや、EJリストから利用することができます。 いつでもアクセスでき、また、連網性が高い(ただし、最新号は一定期間の後に見られるようになっているものもあります)。											

図1.図書関係日程表

【統合前後の両院の見直し】

I. 購読雑誌の見直し

両院共通の重複している雑誌（和雑誌 43、外国雑誌 10）を各部署にアンケートをとり見直しをしてもらいましたが、購読が中止できたのは、和雑誌 16、洋雑誌 10 となりました。重複している雑誌を全て中止するという事はできませんでした（図 2）。

II. 医学中央雑誌 web 版

新病院では 10 月からの新規契約となりましたが、9 月までは掛川の契約を利用し、袋井は 4 月 1 ヶ月のみ契約となりました（図 3）。

III. Up To Date

両院ともに、9 月末まで使用可能であり、10 月からは新病院の契約となりました（図 4）。

IV. メディカルオンライン

医師数が関係ないため掛川の引き続き 5 月から契約となりました（図 5）。

V. 今日の診療

掛川の購読を更新しながら継続使用しています（図 6）。

VI. SpringerLink Hospital Edition

袋井が 1~12 の月契約していたので、そのまま新病院でも 12 月まで使用（図 7）します。

VII. Ovid EBMR

袋井は 3 月末に契約終了となりましたが、4 月 1 ヶ月の契約ができませんでした。再契約に関しては、6 月の図書運営委員会で承認され 8 月から使用開始となりました（図 8）。

	和雑誌	外国雑誌
掛川	85 (7)	40 (2)
袋井	84 (9)	24 (3)
両院共通	43 (16)	10 (5)
新病院	147	59

図 2.購読雑誌

	契約期間	アクセス数
掛川	平成25年9月	3~4
袋井	平成25年3月	1~2
新病院	平成25年10月~	5~8予定

図 3.医学中央雑誌

	契約期間
掛川	平成25年9月
袋井	平成25年9月
新病院	平成25年10月~

図 4.Up To Date

	契約期間
掛川	H25年4月
袋井	-
新病院	H25年5月~

図 5.メディカルオンライン

	契約
掛川	○
袋井	-
新病院	継続購読

図 6.今日の診療

	契約期間
掛川	-
袋井	平成25年12月
新病院	○

図 7. SpringerLink Hospital Edition

	契約期間
掛川	-
袋井	平成25年3月
新病院	平成25年8月~

図 8. Ovid EBMR

【廃棄について】

2012年12月から本格的な廃棄作業が続きました。

I. 単行本

掛川が約4,300冊、袋井が約8,400冊ありました。新病院の収納スペース、約6,000冊にどう納めていくのが問題でしたが、統合に向けての廃棄基準を決めました。

1)新版がでたもの。2)汚れや破損がひどいもの、3)古くて利用価値が低いものを主な基準とし、各科(各部署)長に選書を依頼しました。廃棄基準以外にも重複本など不要になった本をまとめ院内に周知しました。捨てる前に個人活用で救われた本もたくさんありました。シリーズものは多く揃っている方に合わせ、欠号を補充するようにしました。

選択する基準を決めても、「改版した、発行年数が古いからといって捨てられない」、「もう手に入らないかもしれない当時の貴重な書物だ」という意見もあり、診療科によってバラツキもできましたが、両院各3,000冊以内に収めることができました。

II. 製本雑誌

両院の合計約19,000冊は重複している雑誌もありますが、収納スペースは半分です。購読雑誌の見直し時に、バックナンバーの保存年数の希望もアンケートしました。和雑誌10年、洋雑誌15年と決まりましたが、病院長の了承を得て、文献依頼が多いタイトルや所蔵館が少ないタイトルなど、担当が必要だと判断した雑誌については、保存年数に関係なく新病院へ移設できることになりました。こうして、約11,000冊の製本雑誌を廃棄し、掛川3,500冊、袋井2,374冊が搬送対象となりました。

【新病院へ搬送】

移設本の箱詰めは、引越業者さんに手順を説明し、背文字が分かるように箱詰めしてもらいましたが(図9)、図書の扱いが専門の業者ではないため、箱の強度や大きさ、重さまでは配慮してもらえませんでした。

段ボールに貼ったラベルには、備考欄に単行本は分類を、製本雑誌は雑誌名と通しナンバーを記入してあります(図10)。新病院の書架へおさめる時に、このラベルを見ながら両院分を合わせながら配架していきます。

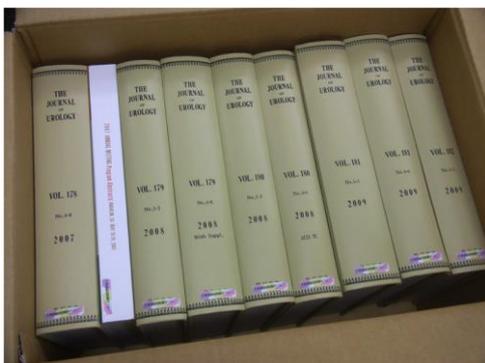


図 9



図 10

搬送日は掛川 4 月 12 日、袋井 4 月 19 日です。診療部門ではないため他部署より早い搬送となりましたが、この日に間に合わせるため、ひたすら移設する本の準備を行いました。両院約 800 箱の段ボールが図書室と廊下に並びました(図 11,12)。



図 11



図 12

【新病院図書室】

設置場所は 3 階医局近くに位置し広さ 107 m² (掛川 133.94 m²、袋井 71.88 m²)、当初の図面は、掛川より広くあった図書室は、後から入り込んだ階段などで狭くなりました。

移動書架、書棚含め単行本 6,000 冊、製本済雑誌 10,000 冊収納予定となりました。

移動書架：64 棚×6×W90=34,560cm、書架：12 棚×棚数 6×W90cm=6,480cm、書架合計 34,560cm+6,480cm=41,040cm、収納可能冊数：厚さ 2.5cm で 16,416 冊、厚さ 3.5cm の本であれば 11,725 冊となり、図書室図面より移動書架や書庫から計算した冊数で、移設する本と廃棄する本の数を算出したこととなります。

利用者は職員のみ、24 時間利用可能、図書管理は掛川で使用していた司書アシストをそのまま利用することになりました。

新規備品：移動書架、書棚、閲覧机、PC 用机、カラーコピー機、FAX、検索性 PC4 台

移設備品：雑誌架 8 台、椅子、カウンター、書庫 4 台、PC2 台

2 箇所ある出入口はスライド式のガラス戸で廊下から図書室内が見える構造になっています。

2011 年から要望し新病院へ望んだ、1)インターネット環境の充実、2)電子ジャーナル導入 (固定 IP の取得)、3)独立した FAX 番号、4)カラーコピーのできる複合機、5)病院組織での図書室の位置づけなど 5 項目は、ほぼ受け入れてくれたことになりました。

【図書・情報コーナーへの関わり】

当初、独立したスペースの必要性を訴えてきたのですが確保することができませんでした。

2 階外来のエスカレータ付近に設置された仕切りを設けない図書・情報コーナーは、広さ 24.3 m²の床面の色を変え車椅子でも自由に中を移動し、必要な情報が手にとれる高さの書棚や閲覧机など、患者サービスのひとつとして利用できるコーナーとなりました。

闘病記・一般的な医学館系図書など 230 冊からのスタートとなり、8 月からはボランティアさんが

関わる運用も開始されました。1階正面出入口には返却ボックスを設け、院内どこでも手軽に読む事ができるようにしました。

【振り返ると】

引越作業に追われ、限られた収納スペースに合わせようと廃棄本以外にも処分してきた備品も数多くありました。何が必要で何が不要か、用途が他にあるかもしれない。捨てるのは後でもできると思った物も多々ありましたが、事前に新病院の現場を見て判断する時間的な余裕もありませんでした。新病院に勤務してから旧病院に残っている備品を取りに行ったこともあります。

【今後の課題】

今まで旧病院で一人業務でしたが、新病院では二人が図書室業務と医局秘書業務を兼務しています。相談できる仲間と机を並べて仕事ができるのはとても心強いことです。今後は、1)目録の整理、2)雑誌・単行書の登録業務、3)図書費の予算配分、4)院内 LAN の活用、5)電子ジャーナル導入強化など、利用できる図書室づくりを図りたいと思います。

今回当院で研修会を開催できたこと、旧病院からの二人が再び連絡会の皆さんとお会いできたことが何より嬉しく思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



事例報告をする望月氏

本文内容の要旨は、平成 25 年度東海目録研修会（2013 年 7 月 29 日）と静岡県医療機関図書室研修会（2013 年 11 月 22 日）で口演しました。